

基地対策特別委員会行政視察概要

- 1 視察月日 令和5年11月14日（火）

- 2 視察先及び視察事項
中国四国防衛局岩国防衛事務所（山口県岩国市）
岩国飛行場をはじめとした中国四国地方における米軍の施設使用状況等について

- 3 視察委員
委員 高田 修平
同 かがゆ 康弘

視察概要

1 視察先

中国四国防衛局岩国防衛事務所（山口県岩国市）

2 視察月日

11月14日（火）

3 対応者（役職名）

防衛省中国四国防衛局岩国防衛事務所所長（説明）

防衛省中国四国防衛局岩国防衛事務所次長（説明）

南関東防衛局企画部次長（同席）

南関東防衛局企画部地方調整課連絡調整室係長（同席）

4 視察内容

（1）岩国飛行場をはじめとした中国四国地方における米軍の施設使用状況等について

ア 中国四国地方における米軍の基地としての使用状況の概要

岩国基地は約865ヘクタールの面積を有し、内訳は岩国飛行場地区が約789ヘクタール、愛宕山地区が約76ヘクタールである。主要施設として飛行場施設、港湾施設、住宅施設、医療施設、弾薬庫、管制塔等が備わっており、米海兵隊と米海軍が主な所属部隊として配備されている。

防衛事務所として、主な所属部隊訓練の詳細については把握していないが、岩国飛行場には中国四国地方で最も多くの米軍がいるとされている。しかしながら、その数については2013年から公表していない。

イ 飛行場や住宅地区の特徴

岩国飛行場地区の主な特徴は、基地内の飛行場のうち約115ヘクタールを海上自衛隊、米軍及び民間航空が共同使用している点である。そのため、岩国錦帯橋空港は空港法上の共用空港となっている。

愛宕山地域開発事業は、岩国基地沖合移設事業への土砂提供と跡地利用に住宅地区を造成する目的で始まったが、住宅団地施設開発事業において採算がとれないとの試算により、開発地の4分の3を国へ売却した。その後、愛宕山地区には米軍住宅施設をはじめ、日米共有の運動施設等の機能を有した施設が建設された。

ウ 質疑概要

Q 近年の周辺住民からの米軍基地の在り方に対する要望や苦情とその対応状況はどうか。

A 旧滑走路は岩国市商店街や住宅地に隣接しており、騒音公害の影響を受けやすく騒音等の問題や事故の危険性があった。

2010年に今の新滑走路の運用が開始された。新滑走路は旧滑走路とは約1キロメートル離れた沿岸部に移設され、以前に比べ騒音の問題は軽減した。

しかし、夜間飛行などの騒音問題はいまだにあり、基本的には米軍のFCLP（陸上空母離着陸訓練）の公表を受けて、自治体からの陳情、要請及び苦情の対応を防衛事務所として行っている。

また、学校行事や地域のイベントなどがある時期は避けて飛行をするよう四半期ごとにまとめて基地に要望している。

Q 米軍と周辺住民の交流等の状況はどうか。

A 令和5年に、地域住民との相互理解を深めるための岩国航空基地フレンドシップデーが4年ぶりに実施され、参加者は6万2000人に上り、交流事業等を通して地域との親善を図っている。また、日米親善リレーマラソンや日米交流事業で日米子供サッカー等も行っている。

Q 近年の内外情勢（ウクライナ侵攻や台湾有事）を踏まえた米軍基地の機能強化の状況はどうか。

A 中国四国防衛局岩国防衛事務所としては、内外情勢を受けての米軍基地の機能強化などについて変化の把握はしていない。基地からの情報は入ってきていない。

(2) 委員所見

岩国飛行場には厚木飛行場から空母艦載機部隊の移駐が2018年3月に完了し、約120機もの航空機が所在し、騒音問題やNLP（夜間離着陸訓練）など地域が抱える課題がある。また、必要な米軍側の情報（飛行計画等）が入手できない場合があり、住民対応に苦慮する点は改善が必要と感じた。

一方、米軍基地と地域との関わりでは、親善イベントをはじめとする交流などを通じ相互理解を促す取組が実施されており、近隣住民の米軍及び米軍基地に対する感情はおおむね良好とみられ、基地の返還よりも共存に向けた取組が中心である点は横浜市とは異なるものと感じた。

各市町村によって米軍基地施設に対する見解に温度差はあるものの、横浜市は首都圏に位置する約377万人が住む大都市であり、米軍が占有している基地エリアは市民にとって貴重な資源である。今後も市内に存在している米軍基地の早期全面返還に向けてさらに機運を高めるとともに、引き続き国に対して要望していく必要がある。



(中国四国防衛局岩国防衛事務所にて概要説明)



(沿岸部から岩国飛行場を視察)